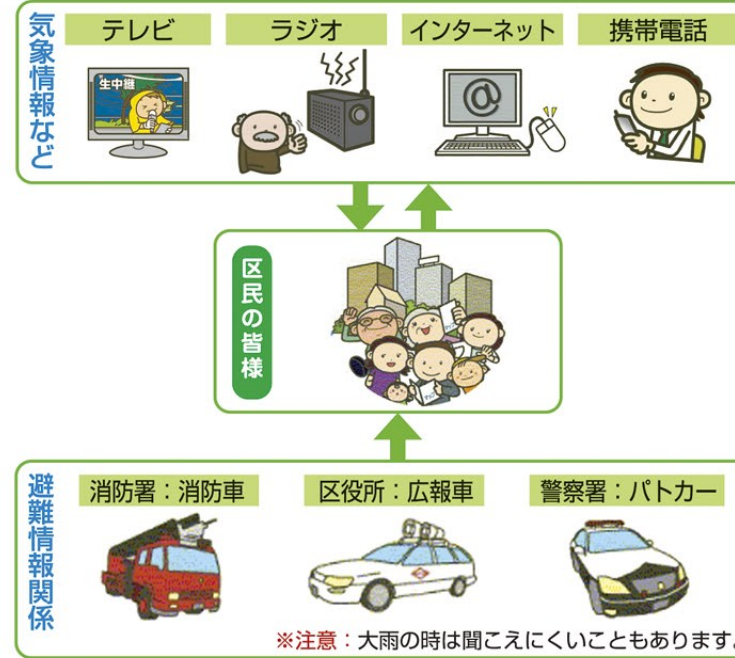


風雨が強まってきたら

● **こまめな情報収集を** テレビ、ラジオ、インターネットなどから気象情報をこまめに収集しましょう。

注意報・警報等の発表基準		
危険度	気象警報等の発表	発表基準
↓ 高	大雨注意報	大雨により、災害が起こるおそれがある。 1時間雨量 30mm など
	大雨警報	大雨により、 重大な 災害が起こるおそれがある。 1時間雨量 45mm など
	土砂災害警戒情報	大雨による土砂災害発生の 危険度が更に高まった とき。 土壌雨量指数（土壌中の水分量の指標）の上昇など
	記録的短時間大雨情報 数年に一度の規模	数年に一度の記録的な短時間の大雨を観測したとき。 1時間雨量 100mm
	特別警報 数十年に一度の規模	大雨により、重大な災害が起こるおそれが 著しく大きい 場合。 数十年に一度の降雨量

◆ 防災情報等はどうやって伝達されるのだろう？



● 集中豪雨の対策

局地的大雨や集中豪雨は短時間に狭い範囲でまとまった雨を降らせることから、事前に発生を予測することは困難です。テレビやラジオ、インターネットなどで気象情報をあつめ、危険を感じたら早めに対応しましょう。

★気象庁のホームページを使いこなそう

気象庁のホームページでは様々な気象予報が掲載されています。「降水ナウキャスト」は1時間先までの各10分雨量の分布を予想しています。積極的に活用しましょう。

検索

<http://www.jma.go.jp/jp/highresorad/>

避難は自らの判断で

大雨や集中豪雨の際の避難は、自らの判断で行うことが大切です。次のような現象が起きたら、避難勧告が出されていなくても、危険が迫る前に早めに避難を開始してください。

● こんな現象が起きたら明るうちに早めの避難を

- 河川** 水位が急に増してきたとき、流れが急激に速くなったとき、がけ地沿いの流れがひどく濁ったり、流木や大きな石が混じっているときなど。
- 低地** 道路の側溝などから大量の水が溢れているとき、雨水がはけずに大量に滞水し始めたときなど。
- がけ** がけから小石がパラパラ落下しているとき、斜面に新たな湧水が発生したときなど。

● 避難の方法は？

- 垂直避難** 堅牢な建物の2階以上または近隣の高い建物への避難。
- 水平避難** 避難場所、近くの高台、土砂災害警戒区域外の親戚の家など安全な場所への避難。
- 屋内避難** 夜間や危険が差し迫っている場合など、屋外へ避難するとかえって危険な場合は、建物内の安全な場所に退避を。

● もし避難情報がでたら…

避難情報の種類によって、次のような行動を取りましょう。

避難勧告等の発令	
避難情報の種類	とるべき避難行動
避難準備・高齢者等避難開始	次に該当する方は、避難を開始してください。 ●お年寄りの方、体の不自由な方、小さな子供がいらっしゃる方など、避難に時間のかかる方と、その避難を支援する方 ●川沿いにお住まいの方 なお、避難場所への避難が困難な場合には、近くの安全な場所へ避難してください。それ以外の方については、気象情報に注意し、危険だと思ったら早めに避難してください。
避難勧告	速やかに避難を開始してください。 外が危険な場合は、屋内の高いところに避難してください。
避難指示（緊急）	緊急に避難してください。 外が危険な場合は、屋内の高いところに緊急に避難してください。

※市では国土交通省・気象庁・神奈川県が発表する情報、雨の降り方や河川の状況を総合的に判断し、必要に応じて避難情報を発令します。

「避難勧告」はがけ崩れの前兆現象等を確認してから発令されますが、「がけ崩れが発生した場合に大きな被害のおそれがあるがけ地」及びその周辺住民に対しては「土砂災害警戒情報」の発表とともに「避難勧告」を発令します。
⇒裏面マップ参照



共助

地域で取り組もう！

災害時は地域で助け合うことが非常に大切です。平常時の準備や、災害時の対応などについて心掛け、実践しましょう。

平常時は…



- 地域の危険な場所や安全な場所への避難経路などについて、事前に確認しましょう。
- 避難場所としての自治会館などの一時利用について検討しましょう。
- 災害時要援護者との日頃からの関係づくり（声掛け、見守りなど）を行いましょう。

災害時は…



- 防災情報の把握（土砂災害警戒情報の発表状況や避難勧告など）に努めましょう。
- がけ崩れの前兆現象を確認した場合は近所の方々と声を掛け合しましょう。
- 複数人で声を掛け合って避難しましょう。
- 災害時要援護者への避難支援に努めましょう。